



二学期が始まりました。9月1日の始業式は、短時間全園児が遊戯室に集まって行いました。「夏休み前の終業式の日にみんなに話した約束を覚えてるかな？」と問いかけると、「ごはんをたくさん食べたよ」「おはようの挨拶をしたよ」「お手伝い、いっぱいしたよ」など約束事を覚えていて、自分の行動を振り返って口々に話してくれました。短時間でしたが、どのクラスの子どももよい態度で始業式に参加できました。その後、各クラスでは夏休みの楽しかった思い出について話し合ったようです。ちらっと覗いてみると「サーカスを見に行ったよ」「花火を見て、ドーンっていう大きな音にびっくりした」など、自分の体験を友達や担任に話していました。年長・年中組では、友達の発言を聞いて「あっ、ぼくも行ったよ」「うん、そうそう」などの反応が見られました。自分の思い出をみんなの前で発表したり、しっかり友達の話を聞いているからこそその姿がみられたりし、その成長を嬉しく思いました。

今学期は、運動会や遠足、生活発表会などの行事もたくさんあります。日々の活動や行事を通して、一人一人がどのように育っていくのか、今からとても楽しみです。

体を存分に動かして…

今年の夏は災害級の暑さで、各地で熱中症で倒れたり命を失ったりする悲しいニュースを聞きます。気温・湿度・暑さ指数によって戸外での活動の有無や時間などを園内でしっかりと共有し、水分補給や涼しい場所での休息などをしっかりとって運動遊びを楽しみたいと思います。

年長児は、鬼ごっこやドッジボール、昨年の年長児の姿からリレーなどを楽しんでいます。ルールやチームという要素がわかり、より面白くなる反面、思い通りにならなかったり、くやしい思いをしたりもします。自分の力を存分に出しながら、様々な感情体験をしてほしいと思います。

年中児は、一学期にしていたジャンプやハードルなどを自分達の好きなように組み合わせ、思い切り体を動かしながらその日その日でコースや遊び方が変わるおもしろさも味わっています。2、3人の子がテレビでバスケットボールの試合を見たことから、ボール遊びも盛り上がっていますよ。

年少児は、フープやコーン、巧技台などを担任が園庭でコースのように並べ、跳んだり、シグザグに走ったり、ジャンプしたりなど、いろいろな体を動かす遊びを経験できるようにしています。

このように、遊びの中で十分に体を動かす楽しさを味わい、もっとやってみよう、明日は今日より早く走れるように頑張ろう、友達と力を合わせると楽しい等の気持ちを育み、運動会につなげていけたらいいなと思います。

祖父母公開日、昔の遊び楽しかったね！

8日(金)は、祖父母保育公開日でした。各ご家庭から2名までの保護者の方をご案内したところ、お祖父さん、お祖母さんもたくさんお出かけいただきました。水鉄砲やコマ回し、お手玉、新聞紙の遊びなどの昔の遊びを、各コーナーで楽しみました。また、平田楽園クラブの皆さんに「昔の遊びの名人」としてご来園いただき、水鉄砲を作ってきていただいたり、遊び方や兜等の折り方を教えてもらいました。園児のためにたくさん来ていただき、平田幼稚園は地域の方に支えられていることのありがたさを改めて感じました。どのコーナーでも、「できたよ!」「教えて」とはしゃいだ声や笑顔が一杯で、本当に楽しそうでした。ある祖父母の方は「楽園クラブの方が、本当の孫のように接していただき、とても嬉しい」と、楽園クラブの皆さんも「何十年ぶりにお手玉などをして本当に楽しかった」とおっしゃっていました。遊びを通して、人と触れ合う楽しさ、嬉しさを十分に味わったひと時ではなかったでしょうか。



～何気ない場面より～

5日(火)は、大雨洪水警報が発令されるほどの大雨となりました。みなさんのお宅、周辺には被害はなかったでしょうか。この日の朝は、ちょうど登園時刻に大雨が降りました。靴下やズボンが濡れている子どももいました。「大変だったね」「濡れていたら着替えてね」などと声をかけて迎えていると、一人の子が「園長先生、長靴が濡れたので新聞紙を入れてください」と言いに来ました。実は、その子は一学期に園庭で遊んでいる時にズックが濡れてしまったので、「新聞紙を入れると乾くんだよ」とズックに新聞紙を入れてあげていました。濡れた履物に新聞紙を入れると乾くということを知っていたんですね。「よく覚えていたね」と、その子の長靴だけではなく、他の濡れている長靴にも新聞紙を入れると、その子は嬉しそうに保育室へ行きました。みんなにもその話を伝え、降園時には、自分の長靴に入っている新聞紙をゴミ箱に入れて少しは乾いた長靴を履いて帰って行きました。その子だけでなく、自分の長靴から取り出した、湿った新聞紙の感触から、生活の知恵を獲得していくのではないのでしょうか。日々の生活や活動の中で、子ども達自身が体感しながら得ていくものを、学びとして生かしていけるといいなと思った場面でした。